

これからの国土管理の課題

CNCP 理事・日本河川協会理事 青山 俊樹

これからの国土管理の課題は、橋やトンネルのような社会インフラの長寿化です。高度政調時代に一齐に造ったインフラは、そのまま時間がたつと一齐に壊れることとなりますが、それには予算も技術力も追いつけません。インフラの長寿命化を図り、予算も技術力もなだらかな増加に抑えることが大切です。

今年の5月21日に国土交通省から発表された『インフラ長寿化計画（行動計画）』は、省を上げての議論から生まれた行動計画となっています。とくに体制の構築については、

- * 適正な施工体制の確保の徹底
- * 魅力ある環境の整備
- * 包括的民間委託や PPP/PFI の活用

といった担い手確保に向けた環境整備を進めるとともに、管理者が NPO 等の民間団体を協力団体として指定し、維持管理に必要な工事等の実施や占用にかかる手続きの簡素化を推進する等の取り組みが例示されています。社会経済的な国力の視点での幹線道路メンテナンスの優先順位の高い施設と、一方で少し工夫して手を加えたりすれば当分安全に地域生活に貢献できるものなど、様々なレベルに依る対応があります。

このうちとくに後者は、市町村で実施可能な管理を想定すると、上記の NPO や市民団体との連携が必然であり、CNCP での議論を大いに期待するところであります。

